

## 自己評価報告書

平成23年4月20日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20330138

研究課題名（和文） 教師による「教育的瞬間」の把握・判断に関わる心理的メカニズム

研究課題名（英文） The psychological mechanism for teachers' judgment of pedagogical moments

研究代表者

鹿毛 雅治（KAGE MASAHARU）

慶應義塾大学・教職課程センター・教授

研究者番号：80245620

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：教育的瞬間、授業過程、評価的思考

## 1. 研究計画の概要

（1）授業プロセスにおける教師による「教育的瞬間」の把握、判断メカニズムを実証的に検討するため、教師の知識、興味、信念が子どもの学習に対する着眼に及ぼす影響について、主に質問紙、インタビューのデータを分析することを通して理論を構築するとともに、サポートシステムを開発する。

（2）理論構築、サポート条件の明確化、サポートツール・システムの開発を具体的な研究課題とする。

## 2. 研究の進捗状況

（1）研究対象校における研究授業後の研究協議会の談話分析とインタビュー調査、調査協力校、機関に対する質問紙調査をすでに実施した。談話分析についてはトランスクリプトを作成しカテゴリ分析を実施中である。インタビュー調査についてはトランスクリプトを作成中である。質問紙調査については、今後、データ解析を進める予定である。

（2）理論構築については、教師の知識、興味、信念が子どもの学習に対する着眼に及ぼす影響について、ほぼ仮説に沿った理論を構築した。先行研究の検討によりエンパワーメント概念を用いて知、情、意の統合過程として教師の学習と成長のプロセスを描き出し、動機づけられた教師の授業実践が教育的瞬間への着眼メカニズムを活性化するというモデルを構築したところである。その検証については、校内授業研究協議会の談話内容のカテゴリ分析を通して検討を進めている。また、インタビューと質問紙のデータの分析を今後進めていくことによって、複数のアプローチの結果を統合することで、理論を多角的に検証する予定である。サポート条件の

明確化については、校内授業研究会の談話内容のカテゴリ分析の結果から、授業当事者（授業者、当該学習者）に焦点を当てた協議会運営と発言内容がエンパワーメントを促し、その後の授業中における着眼メカニズムを活性化する可能性が示唆されている。上記の研究成果を踏まえながら、今後、具体的なサポートツール・システムを開発する予定である。現時点では、授業協議会の方針、形態が教師集団のエンパワーメントを規定することが明らかにされていることから、校内授業研究全体の具体的な運営方法と授業検討のためのツールを具体化、明確化することが課題である。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）

当初の計画通り、実証のためのデータ収集は昨年度までにほぼ完了している。また、先行研究の検討や国内外の研究の最新情報の収集についても計画通り進められており、理論構築もほぼ完了している。

## 4. 今後の研究の推進方策

（1）収集されたデータの分析、考察を中心に研究を進める。

（2）具体的なツール・システムの構築を行うため、インタビューなど、必要な追加データを収集し分析する。

（3）理論の確立に向けて引き続き先行研究の検討や国内外の研究の最新情報の収集を行う。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

鹿毛雅治 教育心理学と授業実践 授業の「基本形」としての生活科、総合的な学習の時間 せいかつか&そうごう(日本生活科・総合的学習教育学会誌), 査読有 2011, 18, pp.24-31.

鹿毛雅治 子どもの学び・教師の学び - 「学びが躍動する授業」教育実践臨床研究(藤沢市教育文化センター), 査読無 2010, pp.131-136.

鹿毛雅治 「教材研究」とは何か 古島実践に学ぶ 教育実践臨床研究(藤沢市教育文化センター), 査読無 2009, pp.99-108.

鹿毛雅治 誰による、何のための、誰のための実践研究か 臨床心理学, 査読有 9(1), 2009, pp.50-55.

〔学会発表〕(計4件)

Kazuhisa Fujimoto, Takashi Oshima, Masaharu Kage Conditions for Attaining Teacher Empowerment through Lesson Study : Focus on Participant-drivenness, and the Role of Researchers. World Association of Lesson Study (WALS2010), 2010.12.9 University of Brunei Darussalam

山本博樹・島田英昭・瀬尾美紀子・東原文子・吉田甫・岸学・鹿毛雅治 児童・生徒における教材学習のつまづきと支援 支援ニーズをくみ取る論理と方法論 日本教育心理学会第52回総会 2010.8.28 早稲田大学

高垣マユミ・鹿毛雅治・白水始・山森光陽・吉田甫・小野瀬雅人 学習環境の教育心理学的アプローチ 日本教育心理学会第52回総会 2010.8.27 早稲田大学

鹿毛雅治 学びと授業を問い直す 教育心理学の視点から 日本独文学会第64回

総会春季研究発表会・ドイツ語教育部会  
2010.5.29 慶應義塾大学

〔図書〕(計1件)

鹿毛雅治 学習環境と授業 高垣マユミ(編著)北大路書房 授業デザインの最前線・理論と実践を創造する知のプロセス 2010, pp.21-38.

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕